

神の子イエス・キリスト

◆ キリストの業（イエス・キリストが世界に及ぼした影響）

1. ㊦ 「父がわたしに成し遂げるようにお与えになった業、つまり、わたしが行っている業そのものが、父がわたしをお遣わしになったことを証している。」 ヨハ 5:36

◆ イエスの教え

2. ㊦ 「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。」 マタ 24:35

◆ イエスの性格（魅力）（マタ 4:20-22）

◆ 最も大切な問い掛け

3. ㊦ 「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」 マタ 16:13
4. ㊦ 「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」 マタ 16:15

◆ イエスは神ですか？人間ですか？

5. ㊦ 「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。」 ヨハ 1:1-3
6. ㊦ 「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。」 ヨハ 1:14
7. ㊦ 「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」 フィリ 2:6-8
8. ㊦ 「つまり、ナザレのイエスのことです。神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。」 使 10:38
9. ㊦ 「イエスは言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巢がある。だが、人の子には枕する所もない。」 マタ 8:20
10. ㊦ 「人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。しかし、知恵の正しさは、その働きによって証明される。」 マタ 11:19
11. 「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。」 ヨハ 13:15；（ヨハ 15,12 参照）
12. ㊦ 「あなたがたが召されたのはこのためです。というのは、キリストもあなたがたのために苦しみを受け、その足跡に続くようにと、模範を残されたからです。」 1ペト 2:21
13. ㊦ 「わたしがキリストに倣う者であるように、あなたがたもこのわたしに倣う者となりなさい。」 1コリ 11:1
14. ㊦ 「はっきり言っておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとへ行くからである。」 ヨハ 14:1
15. ㊦ 「この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。」 ヘブ 4:15
16. ㊦ 「キリストは人間の手をもって働き、人間の知性をもって考え、人間の意志をもって行動し、人間の心をもって愛した。かれは処女マリアから生まれ、真実にわれわれのひとりいとなり、罪を除いては、すべてにおいてわれわれと同じであった。」 現代世界憲章 22

- イエスは真の神であり、真の人間です。

◆ イエスの成長と変化

17. ㊦ 「キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。そして、完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となり、神からメルキゼデクと同じような大祭司と呼ばれたのです。」ヘブ 5:8-10
18. ㊦ 「幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた。」ルカ 2:40
「イエスは知恵が増し、背丈も伸び、(ますます) 神と人々に愛された。」ルカ 2:52
19. ㊦ 「故郷にお帰りになった。会堂で教えておられると、人々は驚いて言った。「この人は、このような知恵と奇跡を行う力をどこから得たのだろう。この人は大工の息子ではないか。母親はマリアといい、兄弟はヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではないか。姉妹たちは皆、我々と一緒に住んでいるではないか。この人はこんなことをすべて、いったいどこから得たのだろう。」」マタ 13:54-56

◆ イエスの洗礼

◆ イエスが使命を受け入れて、それを始める

20. ㊦ 「アンナスとカイアファとが大祭司であったとき、神の言葉が荒野でザカリアの子ヨハネに降った。そこで、ヨハネはヨルダン川沿いの地方一行って、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。」ルカ 3:2-3
21. ㊦ 「ところが、ヨハネは、それを思いとどまらせようとして言った。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」しかし、イエスはお答えになった。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。マタ 3:14-15

◆ イエスの使命とその本性（アイデンティティ）が公に現される

22. ㊦ 「わたしはこの方を知らなかった。しかし、この方がイスラエルに現れるために、わたしは、水で洗礼を授けに来た。」ヨハ 1:31
23. ㊦ 「イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。」マタ 3:16-17

◆ イエスの神の子としての自己認識と自己同一性の発達

24. ㊦ 「そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。水の中から上がるとすぐ、天が裂けて“霊”が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。」マコ 1:9-11
25. ㊦ 「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家（仕事・業）にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。」しかし、両親にはイエスの言葉の意味が分からなかった。それから、イエスは一緒に下って行き、ナザレに帰り、両親に仕えてお暮らしになった。母はこれらのことをすべて心に納めていた。」ルカ 2:49-51
26. ㊦ 「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。」ヨハ 15:9

◆ 神の子としてのイエスの働き

27. ㊦ 「しかし、わたしが神の霊で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ。」マタ 12:28 (マコ 1,12 ; ルカ 4,1 ; ロマ 8,11 参照)
28. ㊦ 「だから、言うておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。あなたがたのうちだれが、思い悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。なぜ、衣服のことで思い悩むのか。野の花

がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。」マタ 6:25-33

29. ☞ 「人々は皆驚いて、論じ合った。「これはいったいどういうことなのだ。権威ある新しい教えだ。この人が汚れた霊に命じると、その言うことを聴く。」マコ 1:27

30. ☞ 「彼らの律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。マタ 7:29

◆ 誘惑

31. ☞ 「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。... 神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ。...

◆ 迫害

32. ☞ 「イエスはお答えになった。「わたしの父は今もなお働いておられる。だから、わたしも働くのだ。」このために、ユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとねらうようになった。イエスが安息日を破るだけでなく、神を御自分の父と呼んで、御自身を神と等しい者とされたからである。」ヨハ 5:17-20

33. ☞ 「イエスは黙り続けておられた。大祭司は言った。「生ける神に誓って我々に答えよ。お前は神の子、メシアなのか。」イエスは言われた。「それは、あなたが言ったことです。しかし、わたしは言っておく。あなたたちはやがて、／人の子が全能の神の右に座り、／天の雲に乗って来るのを見る。」そこで、大祭司は服を引き裂きながら言った。「神を冒瀆した。これでもまだ証人が必要だろうか。諸君は今、冒瀆の言葉を聞いた。どう思うか。」人々は、「死刑にすべきだ」と答えた。」マタ 26:63-66

34. ☞ 「そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって、言った。「神殿を打ち倒し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」同じように、祭司長たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。神に頼っているが、神の御心ならば、今すぐ救ってもらえ。『わたしは神の子だ』と言っていたのだから。」マタ 27:39-43

◆ キリスト者の信仰

35. ☞ 「百人隊長や一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「本当に、この人は神の子だった」と言った。」(マタ 27:54)

「神の子イエス・キリストの福音の初め。」マコ 1:1

◆ イエスの使命(神の国)

36. ☞ 「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。ルカ 12:49

37. ☞ 「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。」(マコ 1:15)

- 神はいつもわたしと共にいてくださる。
- 神がわたしを無条件に愛してくださる。
- 神の約束(神の国・永遠に続く神との愛の交わり)が必ず実現される。

38. ☞ 「わたしを見る者は、わたしを遣わされた方を見るのである。わたしを信じる者が、だれも暗闇の中にとどまることのないように、わたしは光として世に来た。」ヨハ 12:45-46

39. ☞ 「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。」ヨハ 3:16-17

40. ㊦ 「現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないと思ひます。被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます。被造物は虚無に服していますが、それは、自分の意志によるものではなく、服従させた方の意志によるものであり、同時に希望も持っています。つまり、被造物も、いつか滅びへの隷属から解放されて、神の子供たちの栄光に輝く自由にあ
ずかれるからです。被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。」(ロマ 8:18-22)
41. ㊦ 「狼は小羊と共に宿り／豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち／小さい子供がそれらを導く。牛も熊も共に草をはみ／その子らは共に伏し／獅子も牛もひとしく干し草を食らう。乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ／幼子は蝮の巣に手を入れる。わたしの聖なる山においては／何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。水が海を覆っているように／大地は主を知る知識で満たされる。」(イザ 11:6-9)
42. ㊦ 「さて、第七の天使がラッパを吹いた。すると、天にさまざまな大声があつて、こう言った。「この世の国は、我らの主と、
そのメシアのものとなった。主は世々限りなく統治される。」(黙 11:15)
43. ㊦ 「また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐい
とって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のが、すでに過ぎ去ったからである」。すると、御座にいますかたが言われた、「見よ、わたしはすべてのものを新たにする」。(黙 21:3-5)

黙想

目的：キリストとの関係を認識すること。

イエスは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、弟子たちに、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。弟子たちは言った。「『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。

マタ 16:13-16

1. 聖霊がわたしの考え、記憶、想像力、感情を導いてくださるよう祈ります。
2. 黙想の目的が示す恵みを求めて祈ります。
3. **自分の考えではなく、実際の体験、振る舞い、気持ち、感情や望みを調べて、**

以下の質問に答えてください。

- ☞ あなたにとってイエスは、誰ですか。
- ☞ イエスを知っているあなたの生き方と、イエスを知らないあなたの友達の生き方は、どこで異なっているのでしょうか。
- ☞ 選択や決断するとき、イエスと相談したり、イエスの模範や教えを基準にしたりしますか。
- ☞ イエスは、あなたの生き方にどんな影響を与えていますか。
- ☞ イエスから学んで、実際に実行していることがありますか。
- ☞ 自分の喜びや悲しみ、成功や失敗、困難や問題などについてイエスと話していますか。
- ☞ あなたの人生においてイエスは、どんな役割を果たしていますか。
- ☞ イエスを知って良かったと思いますか。なぜですか。
- ☞ イエスに感謝したいことがありますか。どんなことですか。
- ☞ あなたにとって最も良い人生の模範を示しているのは、誰ですか。
- ☞ 誰から生き方を見倣っていますか。

4. 終わりに、いただいた恵みを感謝してから、この恵みに対してどのように応えたいかということについて神に話してから、「アヴェ・マリアの祈り」と「主の祈り」を唱えます。